

由香ちゃん

急性リンパ性白血病と闘った由香ちゃん

笑顔 ありがとう

斉藤由香





■一時退院したときの由香さんの笑顔■



■上・夢多き乙女・由香さん。下・夏の日の家族の一日■

お帰り 由香ちゃん

平成十二年三月七日、由香が急性リンパ性白血病と診断され、即入院。三日後には無菌室での治療が始まりました。突然の出来事に私達は戸惑い、悲しみ、絶望の日々を何日過ごしたでしょうか。

主治医からの説明もハイハイとうなずくものの、私の頭の中は、由香を失いたくない、ただそれだけで正直、先生のお話よりも何で、何で、由香がこんな目に合うの、こんなよい子なのに、何悪い事したのよ、と心の中で大声で叫んだのを覚えていきます。

三月七日～十一月二日日まで、治療中二度の肺炎を乗り越えたものの、病状は一向に良くならず、そしてドナーも見つからず、さい帯血からの移植に踏み切りました。＼きつと治る、助かる事だけを念じて頑張ろう＼そんな思いの中、最後の治療に賭けました。でも、その頃の由香の体力は限界でした。とうとう移植を待たずに旅立ちました。

両親が揃って何も助けて上げる事が出来なかった親の無力感がこみあげて、ただ、ただ、ごめんね、ごめんね、由香、って謝るしかなかったのです。病気の事、これからの治療の事、主治医からの説明があつた時、由香自身が治らないのだつたら、苦しめるような治療はしないと決心しておりました。でも一縷の望みがあるのならお願いだから治療して……と頼みました。

由香の心の内は分かりませんが、一応納得してくれました。主治医を信じて、先生も由香の質問には、根気良く答えて下さいました。時には先生と楽しそうに会話をしている姿を目にする事もあり、私も一時の幸せを感じたものでした。

無菌室と言えば個室でガラス張り、面会もガラス越しで話もインターホンからでしたが、由香に会える事だけを楽しみに毎日毎日通ったものでした。でも由香がどんなに苦しがついていても、ただ、ただ、ガラス越しから様子を窺うだけでした。白血病は先生方が何年も何年も研究して、いまだ解明出来ない病気です。私にはとても理解出来る問題ではありません。私に出来る事は、いつも変わらぬ明るく元気なお母さんでいる事です。どんなに辛くても、悲しくても、変わらぬお母さんで面会に行きました。八カ月近く病院へ通っていると色々な場面に出会います。

病床は全員マスク着用ですから、そうそうどなたともお話が出来る訳ではありません。どの家族も必死だった様に思えます。その中でも由香と一つ上の寺坂由起子さんとお話する事が出来ました。とても心の優しい子で自分自身体調も良くないのに、由香を気遣って由香ちゃんには私の体調が悪い事言わないでね、と言われました。あー、何て優しい子なんでしょう。

お互い元気になったら、良い友達になれると思いました。でも由紀ちゃんも由香の二週間後、後を追うように旅立ちました。誰もが、頑張ったのに……。何で、何でやの、と大声であたり構わず叫びたい。返して頂戴、私達の子供を、家族を返して……。世間

には生きてたくても、生きてくても生きられない人がいるのに、自分から命を絶つ人もいれば、自己中心的に他人の命を奪う人もいる。どうしてこんな不条理な事ばかりあるのでしょうか。

化学療法、抗ガン剤、輸血、どんな治療にも頑張ってきた由香が、ある日、お母さん、睫毛まで抜けるのよね、と泣きました。自慢の白い肌と、黒い髪、そして体の一部がこわれていく淋しさを、治ったら必ずもと通りになるから大丈夫よ、と慰めにもならない言葉を言ってしまうました。髪の毛も抜けて、顔さえはつきり見えない程スカーフを深くかぶってベッドの上に座っている娘の姿を見るのは親として、どれほど辛かったか。

でも本人はもつと、もつと辛かった事でしょう。

一度患者さん同士の話を耳にした事があります。

「この病気は親にも姉妹にも分かってもらえないのよね」

本当ね、お母さん、由香ちゃんの本当の気持ち、治療の辛さ、死への恐怖、そんな時、お母さんは目に入るすべての物に、由香を助けて、助けてお願い、お願いとすがる事ばかりの毎日でした。

わがままも言わず、愚痴もこぼさず、頑張っていたある日、「お母さん、お父さんとお母さんが死んだ後、由香、再発したらどうしたらいいの」と聞いたよね。お母さん、返事に困ったの。色々言葉を並べて心配しないで、と返事をしたけど、由香ちゃん、本当は淋しかったのよね。由香ちゃんに先立たれて、お母さん、とうとう一人ぼっちにな

って淋しくて、生きる意味も、働く意味もわからなくなる時があります。入院中の事はまるで映画のスクリーンの中の自分を見る様で今でも鮮明に覚えています。家から病院まで目を閉じて通える気がします。今お母さんは由香ちゃんがお母さんに似合うと言ってくれたヘルパーの仕事を続けていきます。お母さんを必要とする人がおられる限り頑張るつもりです。

でもね、時々、車の運転中、このままブレーキを踏まなくてすむんだったらと思う日もあります。でも、由香ちゃんに、散々頑張れと言っておきながら、身勝手なお母さんを許せないよね。由香ちゃんはお父さんとお母さんに言葉や、お友達を沢山残してくれたわ。今でもお友達が訪ねて来てくれます。お手紙を頂いたり、お友達のお母さんからもお手紙頂く様になったの。きっと両親が淋しく無い様にしてくれたのよね。もし今ひとつ願いが叶うのなら、お母さんより大きくなった由香ちゃんをきつく、きつく抱きしめて、ずっと、ずっといつまでもだっこして、お母さんもしばらく休みたい。あまりにも深い悲しみに疲れました。楽しかった頃のあの日に、もう一度、由香ちゃんの顔が見たい、声が聞きたい、食事もしたい、今日あった事もお話がしたい、一緒にお買い物も行きたい。いつかまた会えるよね。

これからずっとお母さんの子よ。由香ちゃんが気にかけていた小さなお友達、時々お家にやってきました。小さなお友達は「お帰り」の言葉を覚えました。お母さんと一緒に飛行機を見つけてはお帰りとつぶやいています。きっと由香ちゃんに言っているので

しようね。

そう思うことにしました。小さなお友達は由香ちゃんと同じ優しい子に育っています。由香ちゃんがまだ顔見ぬ小さなお友達は元気な女の子。これからも家族で由香ちゃんにお帰りを言いましよう。

最後に主治医をはじめ、由香の治療に携わって下さったドクター、ナースの皆様、最後までつくしてくださいました事、そして最後まで由香ちゃんと呼んで下さってありがとうございました。

残った家族と由香の事、心配して下さい下さった方々やお友達にありがとうございます。

母 齊藤信子

編集 佐田 満
校閲 佐田 満
装丁 見山アサ子
オペレーション デザインオフィスはな
コピー 宇田川森和
見返し 東 隆史

もくじ



由香ちゃん 笑顔ありがとう・もくじ

グラビア／2

お帰り 由香ちゃん・斉藤信子／5

入院日記 2000.5～8

しの字型の鼻／20 水／20 仕草について／21 散歩／22 ローズマリー／24 外見を磨く／25 カフェオーレ／26 寝ること／27 手について／27 チョコレート／28 好きな女 たまきさん／29 怒るということ／30 古着物展／31 薄着／32 クレープについて／33 一緒にいること／33 コーヒーシヨップ／34 鳥の絵の描いている青い服／35 今欲しい物「アニエスのTシャツ」／36 葡萄／37 紫陽花／38 思うこと／39 入院してから／40 バナナチョコジェラード／41 時がたつこと／42 努力すること／43 M先生／45 笑って過ごす／46 服について／48 心配り／48 嘘をつくこと／50 不満／51 今日6／13 食べたいケーキ／51 芝居がみたい／52 恋人たちの予感／53 泣くこと／54 何やよくわからん／55 お酒がのみたい／56 初めてブクッとした手になった／57 放心状態／57 しんどいと感じる／58 フレンチトースト／59 タルトについて／59 昔創った

由香ちゃんからのお便り

9・9 (土) / 114
9・8 (金) / 113
9・7 (木) / 111
9・6 (水) / 110
9・5 (火) / 109
9・4 (月) / 108
9・3 (日) / 107
9・2 (土) / 106
9・1 (金) / 105
8・31 (木) / 104
8・30 (水) / 104
8・29 (火) / 102

森万利子さん / 118

ともみちゃん / 120

まりちゃん江 / 121

おばちゃん江／ 122

森さん江／ 124

友美さん／ 125

おばちゃんから／ 129

由香のお母さんから森さんへ／ 129

おばちゃん、友美ちゃん、万利ちゃん江／ 132

友美ちゃんへ／ 135

まりちゃんへ／ 137

友美ちゃんへ／ 138

椿温泉・第二の母／ 140

NSさん江（入院中担当の看護婦さん）／ 141

由香さんのメモから／ 143

寺坂由紀子さんとの交流／ 149

頑張ったみんなへ・寺坂三千代／ 153

天国の由香ちゃんへー

由香へ・兄 誠／ 156

由香より純ちゃんへの手紙／158

純子より由香ちゃんへ／159

おじいちゃんと孫（由香）・斉藤愛子／162

天国の由香から名古屋のおばちゃんへの手紙／166

由香ちゃんへ・名古屋の叔父より／166

由香ちゃんへ・昌美姉さんより／168

斉藤由香様・山本由紀子／170

由香ちゃんへの想い・坂口好子／171

若くして天国に召された由香ちゃん・西野律子／173

天国の由香ちゃんへ2

いつかまた椿温泉へ行こう・森万利子／178

さいとうへ・たまき／180

斉藤へ・山岡澄江／181

由香へ・長田牧子／185

素直に話せる友達・谷由香利／186

青空・森岡由香利／187

サイトへ・井上 彩／188

由香ちゃんへとどけ

高校時代からの友人たちから

今高慎之介／192 大津圭介／192 堀田達雄／193 本田 哲／194 東 隆史／194

辰巳和則／195 南 博人／195 池田佳隆／196 内原由佳子／200 藤田 弘／201

星加裕美／202 岡部加代子／202 小林貴子／202 田辺由美／203 清水 昭／203

佐藤 愛／204 宣井孝子／205 中ノ端理沙／205 前田英美／206 平山由紀／206

吉田充代／207 榎本よう子／207 高橋みのり／208 高見加代／208 栗巢清美／208

N・M／208 七座恭子／209 山本真由美／211

リフレクソロジスト

松田智子／212 渡辺ひとみ／213

アルバム・由香ちゃん

小学校五年生の由香ちゃん／218

思い出のアルバム／220

履歴／
225

由香の歩み・斉藤善二／
226

入院日記
2005～8

入院日記

2000.5~8

1. しの字型の鼻

近頃、私は、何事についても大なり小なりの私なりのこだわりを持つようになった。理由は特にない。

そのひとつが、しの字型の鼻である。私はこれがある本の中で見つけ、私も年をとったら、この鼻を持った人でありたい。美人、かわいらしいといったものに属さない顔を持てる、そう感じたのである。

きっとこのしの字型の鼻は、私の顔をもっと平面的なものに変え、今よりずっと女に仕立ててくれるに違いない、そんなことを考えながら、今日も鏡に向かうのである。

2. 水

入院していたらあまり飲まなくなったが、私はちよつと水にはうるさい。

今一番気に入っているのは、鹿児島県の垂水の温泉水。これは実に口当たりがよく、重さを感じさせない。口に含み、のどを通ると、パーっと全身に広がっていく、そんな

感じ。この水を飲むと、体がとてもきれいに洗い流されたような気がする。オレんじジュースや、野菜ジュースには果実の持つエネルギーを食っちゃってる気がするが、水は、神様に一度感謝してから頂くといい、何か儀式的なものを感じてならない。いろんなところの水を飲むたびに、私の神様はまた増えていくのです。清くありたい、私の魂がそう叫んでいるのでしょうか。

3. 仕草について

だいたい女の人には、はっと驚いてしまうような一瞬の間を作る行動がある。それはその人の癖であり、仕草というものである。

私のお気に入りの仕草は、まず目で人を追う時、嬉しい時、幸せな時の口の形、小さくなほこりを取る時の手のかたち、表情、好きな人を見ている時など。何でも無い時と、幸せな時の仕草は、間と、空気がとても心地よい。

「ああ、私もああいう表情ができたらなあ」
なんてうらやましくさえ思う。

私自身一番気にしているのは、手の位置である。私の持っているもので一番味のある部位なので、他よりもずっと美しく感じる。考える時、物を取る時、触る時、ちいさくちいさくまとまろうと働いてくれる。間を作るにはまだ至らないけど、日々このお